夕張、あくまで再開発へ

大臣提案足がかりに全力

小雨降る夕張清陸西口駅前で、石炭協会の答申、大臣提案をめぐる報告集会。（5月22日）

政府、業界は責任果せ

通産相交代で事態進まず

「国の責任で最大限の努力をする」（安部通産相＝当時）という約束のもとで北炭夕張炭鉱が閉山、全員解雇に踏み切って八カ月余り――。石炭協会は「採算に合わず、再開発は不可能」と答申、これを預りとして山中前通産相は道の参加のもとでの再開発案を提案、道もこれをうけて具体的な協議に入る寸前、大臣が辞任して宇野新大臣に交代、局面はきわめて流動的であり、早急な再開実への結論が強くのぞまれます。

山中前通産相の提案は、当初国の責任を横路道政に転嫁するものと大きな反発がありましたが、その後の衆議院石炭特別委員会、参議院エネルギー特別委員会での質疑を通じ、責任は国が負うという姿勢が示され、前向きなものであると炭労は判断し、①国の援助と保安対策、技術開発、鉱区調整などで長期的な開発が可能であり、将来、地域経済と国民の利益となる。②再開発の検討を早急に行なうこと。③国、石炭業界、自治体が再開発に取り組む条件と環境を作るため全力をあげる。④いかなる形態であれ、その実現のために

あらゆる行動をとり、石炭業界には実力行使を配置してたたかう。との態度を中央委員会で決定し、当面石炭業界と北炭資本に要求行動を起こし、さらに道知事、道議会、道の各政党、夕張市長、夕張議会への要請行動を行ないました。

山元では約千人の労働者が失業中であり、怒りといらだちのなかで再開発を待っています。

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033～4
編集兼発行人 杉本 一男
半年間 1,200円 送料共
振替口座番号
労金大牟田
0968946－005

公判のお知らせ

11・9 三池大災害裁判公判 七月十五日午後一時から、福岡地方裁判所で。（50回）

9・28 坑内火災裁判公判 七月二十八日午後一時から、同右裁判所で。（42回）

声明

全国民のみなさん

夕張新炭鉱の再開発問題は、いま重大な岐路に立たされています。政府の要請に基づき、同鉱の再開発の可能性について検討してきた石炭業界は〝再開発は可能である〟という大沢管財人の構想をもとに、昨年十月八日、再開発の可能性を見い出すよう最大限の努力をするので、いったん閉山、全員解雇を認めてほしいとしていた約束を裏切り、同鉱の再開発の可能性を作為的に過少評価し〝採算ベースにのらない〟などを理由に「再開発は不可能」という結論をすでに明らかにしています。

これに対し山中通産大臣は「なんとか再開発の糸口を見い出すべく、北海道と石炭協会に協力を求めた。そして一％でも可能性があれば、政治判断により、最大限の資金援助をする」という態度を表明しています。

これは、多くの不十分さを含みつつも、事態を前進させるうえで、一定の積極面をもった提起であると判断されます。

全国民のみなさん

夕張新炭鉱の再開発の成否は、いうまでもなく地元労働者の生活と雇用、地域社会の振興と重大なかかわりをもっています。

しかし、問題はそれだけではありません。仮に、同鉱の再開発の道が断たれるならば、本来、国の財産であるべき国内資源が、永遠に放棄されることになります。

これは、どのような見地からみても、国家的、国民的損失であることは明白です。この意味で石炭業界の態度は、地元労働者、住民の期待を踏みにじるだけではなく、まさに、反国民的、反社会的なものといわなければなりません。

全国民のみなさん

いま、私たちの選択すべき道はただひとつ、反国民的、反社会的な石炭業界の答申を断固排除し、山中通産大臣提案をふまえて、夕張新炭鉱再開発の活路を見い出していくことであると考えます。

私たちはこのような方向で、同鉱の再開発実現を組織の命運をかけてたたかいとることを、決意をこめて表明するものであります。

同時に、このたたかいに対するみなさんの深いご理解とご協力を心からお訴えするものであります。

一九八三年五月三十一日

日本炭鉱労働組合

知事公舎の有効利用へ

50万人署名運動

社・共・県評 白島疑惑も

奥田革新知事実現の中心を担った社会党、共産党、県評などは現在、知事公舎の有効利用を求めて五十万人規模の署名運動を展開しています。

先の臨時県議会で、知事に対する石翼の暴力事件をきっかけに、議会での多数におごる自民党をはじめとした野党は、『知事公舎条例』を盾に「公舎入居が前提」と強く迫ったいきさつがあります。

六月の定例県議会でも公舎問題が焦点になるのは必至であり、この署名運動は、公舎の有効利用をはかり、「公約実現」「革新県政推進」のために、六月議会に間に合うよう早期の取り組みが求められています。

また同時に行なわれる白島疑惑署名では、北九州市の白島洋上備蓄構想について、いま何が問題なのか明確になっていないことから、①内部資料を公表すること、②汚職疑惑を解明する審議の場を作り公開すること、などを求めています。

「労働戦線統一」問題で大衆討議

今年三月の炭労大会で、『全民労協』参加問題が、議長裁断で七月大会に延期されていましたが、いよいよ結論を出す段階となり、三池労組では従来の主張の整理を行ない、大衆討議に入りました。

危険信号――

保安技術職員の負傷続出

会社は発想の転換を

三池炭鉱での負傷者数は、統計にこえています。このような実態から出ない〝保安部あずけ〟などに、福岡鉱山保安監督局が警告を出しているありさまです。

保安技術職員は、日常現場で労働者に対して保安について指導し、不安全要素を取り除き、環境改善についての義務と責任を負う立場にあり、その本人が負傷するなど絶対にあってはならないことです。

原因として考えられるのは、①保発や、職員への昇格基準が甘い（経験十年以内もいる）。②労働者に適確な指示ができない（能力の問題か）。③現場での請負給制度が生産第一主義にかりたてている。④目標達成のために職務外の作業に従事している（上役からの督励がきびしい）。などですが、保安を優先すれば金にならない請負給制度が最大のネックであり、近代的賃金制度という点でも廃止を考えたらどうだろうか。

係員も、作業者も安心して働ける職場、そしてこそ生産確保が可能になるのではないだろうか。

（この項、『保安だより』から）

保安技術職員の負傷数（昭和58年 1月→5月）

鉱名	四山	三川	有明	計
負傷者数	3	2	2	7

昭和58年4月 負傷者数調べ

鉱所	重傷	軽傷	微傷	保安部	計
四山	6		2	11	19
三川	2			5	7
有明	3		1	3	7
本所					0
港務					0
計	11	0	3	19	33

地底

▼…二十日余りも好天が続いた後、一週間おくれの〝梅雨入り〟宣言。入ったとたんの大雨で総て足止め。サツキのシーズンは終ったが、アジサイが見事。組合事務所に持ち込まれた花菖蒲も鮮やかだった。

▼…長丁場の参院選も中盤を過ぎた。もう一つ盛り上がりに欠けると指摘されるが、テレビ、ラジオでの放送もはじまり日一日と増幅するのは確か。調査によると制度改正で比例代表の「仕組み知らない」が三〇パーセントもあるとか。急造党派の乱立も気になるが、浮動票とともにともかく投票所に足を運んでもらうことが先決。

▼…新聞各紙の支持率調査では、自民党支持が四〇パーセントを超し、中曽根内閣の支持率も上向きだとか――。軍拡ラッパは景気よく吹くが、本物の景気は倒産・失業が上向き。自殺者が年二万人を超え、いぜん晴れぬ日本丸の行方。「軍艦マーチ」の似合う男をこのままにはできぬ。ふさわしい「葬送曲」はないものか。

▼…沖縄で米第七艦隊と沖縄駐留米海兵隊が「バリアント・ブリッツ（勇敢な電撃作戦）」という名の大規模な上陸大演習。日本の自衛隊百十七人が行動をともにし、まさに戦場。六月二十三日は沖縄戦終結記念日で「慰霊の日」、これに当てこんだような暴挙をなんと見る。まさに〝安保の恐怖〟であり、〝戦場の沖縄〟だった。

▼…夕張新鉱の再開発にようやくかすかな光が射したかと思われた矢先、突然の通産相の交代劇。「山中前大臣のユニークな提案」だとしながらも「真意を聞いてから」と慎重。前大臣は電力料金の値下げに執念を燃やしていたがどうやら〝見直し〟の様子。大臣が変ったことで〝軌道修正〟となれば、〝夕張の灯〟は消える。